

## 新S棟の免震構造について

コンストラクションマネージャー  
河合 隆文



地震の8割は太平洋沿岸諸国で発生し、残り2割は地中海沿岸諸国、トルコ、イランと続きます。阪神淡路大震災の時私は明石市に住んでおり、震源地は目と鼻の先でした。地下深くからゴーという音が聞こえたかなと思った瞬間、凄まじい揺れと轟音に自宅が倒壊するのではないかと思いました。幸い大した被害はありませんでしたが、震度5弱であれだけの揺れだったのですから震度7の揺れは想像もできません。日本では震度0~4、5-、5+、6-、6+、7の10段階表示です。

地震に対する工法としては、耐震、制振、免震の3通りがあります。簡単に言えば、耐震は頑丈にして踏ん張る、制振は振動を吸収、免震は土地と建物を絶縁し、地震の力を受けないようにすることです。最近の技術と思われがちですが古くからあります。五重塔は心柱（最上部のみが心柱にくっついている）が揺れることで地震を吸収する



古代の免震装置

制振となっています。5千年前のアンデスには葦で編んだネットで小石を包んだ「シクラ」というものがあり、世界最古の免震装置ではないかと言われています。耐震工法では建物が倒壊しなくても、器材が散乱し病院機能を維持することができなくなります。



現代の免震装置

こうならないために新S棟は免震工法を採用しています。ゴムと鉄板を交互に重ねた直径1.2m、高さ40cmほどの免震装置を柱の下に設置し、大地震時（震度6から7）にも、機器が転倒することなく、医療が継続できるように計画しています。免震装置を設置した段階で現場説明会を開催しますのでぜひご参加ください。



## 染井吉野 ソメイヨシノ

～城山公園～

全国の染井吉野はクローンであり、種子は存在せず、すべからく接木によって増えていると知った。つまり日本の桜は、江戸染井村発の全て同じクローンであり、桜の時期になると遠望でよく目にする、はるか山奥に散在する桜は、鳥によって桜の異品種間にできた種子が運ばれたのであり、もはや純系の染井吉野桜ではない。クローンであれば、一斉に開花する理由の説明も容易であり、満開の時期に桜同士が互いに開花の信号を送っているのではなく、開花の自然条件のみで決まるために、桜前線が形成される。クローン故に反応は単純明快である。（写真・文／大拙祐治）

## 地域連携室

～看護師配置でメンバー強化～

看護部副部長  
地域連携室 室長 川本 かよ子

4月より地域連携室へ配属になりました。これまで地域連携室の活動は事務職員3名で行っていましたが、病院の変革期を迎え、4月より看護師3名（うち保健師1名・介護支援専門員1名）の増員となり、計6名で活動することとなりました。更なる活動の拡充に努めて参ります。

看護部におきましては退院支援委員会を立ち上げました。地域連携室と協働し、入院直後より患者さんやご家族が、各々の生活の場で、その人らしく「納得・安心・満足」のいく療養生活・退院後の生活を送ることができるように、退院支援・退院調整に関わっていきたくと考えております。

「顔の見える連携」に事務職員に並び看護師も仲間入りできるよう、良き支援者としての役割を通して信頼を受け、幅広い連携の実践を目指していきたくと思います。



前列左より  
川本かよ子、矢野和恵、水野孝美  
後列左より  
三谷直紀、加藤久美子、岡田浩之

よろしくお願いいたします!

## お知らせ

### INFORMATION

### ERを新設しました

平成25年4月1日より従来の救急体制を一新し、ER(救急救命室)での診療を開始しました。それに伴い、救急車専用口を設置しました。ウォークイン(救急車以外での来院)の患者さんと救急車及び緊急処置を要する患者さんのブースを分け、これまで以上に重症度・緊急度の高い患者さんに迅速な対応ができるようになりました。良好なチーム医療により、安全・安心・満足を提供できるよう努めていきたくと思います。

現在は仮設の段階で十分なベッド数の確保ができていませんが、平成27年10月には約2倍に拡大されます。「良いことへの道は、遠回りの道を通して、目的へと近づいていく」とあるように、より一層向上を目指してまいりますのでよろしくお願いたします。（外来看護師 千守留美）



### 編集後記

新年度がスタートしました。新たな広報委員のメンバーで色々な情報をお届けいたします。今後ともよろしくお願いたします。

委員長：花本 雄二 副委員長：玉野 祐仁

委員：浅野 光孝、戒能 裕、三谷 直紀、岡田 浩之、山辺 由紀、吉岡 博子